

南大阪平人・沖縄現地学習会報告(支部機関紙より転載)

沖縄の実相に触れた貴重な三日間

昌一金属支部 M

六月二〇日から二十二日までの三日間、南大阪平和人権連帯会議が主催する沖縄現地学習会に参加させていただきました。

二〇日朝、自宅近くへ支部のK書記長に車で迎えに来てもらい、伊丹空

伊丹空港で結団式



港まで送っていただきました。空港内の集合場所へ行くと、ほとんどの参加者が顔の知らない人達ばかりでした。

今回、昌一金属支部からは私一人の参加です。予定時間に遅れて那覇

空港に到着。空港建物をみると、大阪とは全く違う気候を体感させられました。高温多湿。三日間、汗かきの私を悩ませる沖縄の気候は、年間通して平均気温は三〇度前後で、猛暑日は無いそうです。湿度の高いこの六月が最

も過ごしにくいそうです。那覇空港で平和ガイドの本村さんの出迎えを受け、バスに乗り込み沖縄本島北部へと向かいました。今回の現地学習会では、北部から中部、南部

へと進んで行く予定です、それは正に沖縄に上陸した米軍の進撃ルートに沿って進められるということです。以前までは逆だったそうです。普段、乗り

物に乗ると大抵眠る私なのですが、沖縄を見逃したくなくて、現地学習会中は常に起きて風景を眺めていました。那覇などの市街地を見てみると、大阪とさして変わるところは無く、ブックオフやゲオなんかも普通にありました。

正午すぎに沖縄自動車道の伊芸サービスエリアにて昼食と休憩を取りました。

昼食後、高江の米軍北部訓練場へと向かいました。北部地区は、正にシャングルと言って良いほどの森林地帯で、こちらではこの地域をやるばら(山原)と呼ぶそうです。目的地の東村・高江のハリパッド建設反対闘争テント村へ向かう道すがら、人気を感じませんでした。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!



ヘリパッドとは、ヘリコプターの離着陸帯の事で、直径七五mの円形に造成して作られているそうです。

北部訓練場には二十二ヶ所のヘリパッドがあり、周辺住民は爆音や墜落の危険に晒されています。新たに高江集落を取り囲む形で六ヶ所のヘリパッドの建設が予定されています。

るのです。やんばるの森には、ヤンバルクイナ、ノグチゲラという固有種や絶滅危惧種が数多く、生物の宝庫とも言えます。現地で説明していただいた高尾さんらはこれからも抗議行動で高江を守る活動を続けていくとおっしゃっていました。東村の役場前でトイレ休憩でした。ここで食べたパンフローズンはとても美味しかったです。高江を後にしてキャンプ・シュワブのゲート前に移動し、辺野古新基地建設を反対するテント村を訪問しました。沖縄平和運動センター事務局長から状況報告を受け、県警に

よる過剰警備や海保による暴力的排除があることを訴えられました。シュワブのゲート前には黄色のラインがあり、それを越えると敷地内に立ち入ったとして拘束されることもあるそうで、現に沖縄平和運動センター議長の山城さんは、米軍に拘束されたことがありました。一日目の宿泊地である名護市に到着しました。「ルートイン名護」というホテルでしたが、大浴場もあって快適でした。市職港区役所支部の大平さんと同室になりました。一〇分ほどしてからすぐに夕食の為に外出することになります。「海牛」

という名護市内の居酒屋さんです。ここで自己紹介が行なわれ、飲み会が始まりました。刺身やら揚げ物等が色々出て来ましたが、僕は海ぶどうもずくの天ぷらがとても気に入りました。毎日飲み続ける覚悟でしたので、ビールはなるべく控えて、泡盛一辺倒で飲むことにしました。時間が経過するにつれ、団長の山元さんの目がすわりだし、言動もよくわからなくなつて大変面白かったです。二日目はオリオンビールの工場を横目に見ながら名護城(名護中央公園)へ入っていききました。園内の看板には、「日本一

桜の開花が早い」と書いてありました。山頂に神殿があり、そこに至るまで六二〇段の階段を登らないといけません。一気に駆け上がりたかったです。半分くらいで息が切れてしまい、残りは歩いて登ることになりました。上から名護市内を一望出来て登って良かったと思いました。公園を出て、名護市役所などを見ながらホテルへ戻りました。

朝食の時に、平和ガイドの本村さんと相席になり、平和への想いを聞かせていただきました。「何故、平和を学ぶのか。自分の大切な家族を、息



道の駅で有銘さんの話を聞く

子達を守りたいからだ」「押し付けでは無く体験させることで、平和の尊さを感じて自分で考えてもらいたい」、他にも子供に対する並々ならぬ愛情が伝わってくる言葉を聞かせていただきました。ホテルをチェックアウトして、バスに乗り込み嘉手納へ向かいました。嘉手納基地が見える「道

の駅・嘉手納」で違憲共闘会議の有銘さんから基地の現状について説明していただきました。説明を受けている間も戦闘機が離陸する様子が見れましたが、その騒音たるや、推して知るべしでしょう。米軍住宅地の上は飛行しないのに、地域住民の住宅地の上は平気で飛んでいくそうです。

そのあと読谷村にあるチビチリガマに向かいました。チビチリガマは、V字型をした谷の底にある。集落内に源をもつ湧水が流れ出て小さな川をなし、それが流れ込む所に位置し、川が尻切れる所といった意味から「チ

ビチリ」(尻切れ)という名が付いたと言います。沖縄戦の集団自決などを調査なさっている知花昌一さんから、一九四五年四月一日の米軍上陸とガマに逃げ込んだ住民が恐怖の中で集団死していく歴史的背景の説明を受け、普段は中に入れないガマに入り冥福を祈りました。ガマには、現在も遺骨や生活用品がそのままにあります。

次に彫刻家の金城実さんのアトリエを訪問しましたが、沖縄に所縁ある人物の像など、様々な作品が所狭しと乱雑に置かれています。弁当やビールを飲みながら約一時間

近く「オール沖縄」の取り組みについて説明を受け、安倍政権が押し進める辺野古新基地建設を阻止する闘いの重要性和全国的な支援の輪を広げていくことが大切だと熱弁されました。風変わりな容姿、言動、生活をされている方でしたが、有意義な時間を過ごさせていただき、帰りはバスの中まで見送りに来られました。

バスは宜野湾市に向かい、沖縄国際大学の米軍ヘリ墜落現場の見学をしました。ヘリ墜落で被害を受けた壁が今も残されていて、木は燃えたのか、ススが付いていました。



沖縄国際大学で被害状況を見る

民間人に負傷者が出なかつたものの、近隣のマンションや保育所にヘリの部品が飛散したそうです。つづいて嘉数高台^{かかず}へ向かいました。現在は、小高い自然林を利用して造成された公園になっており、去る沖縄戦では、京都の部隊が守備にあたっていましたが、激戦地となりましたが、多くの犠牲者を出したと

いわれ、その霊を慰めるため慰霊の塔が建てられました。公園内には地球儀をイメージした展望台あり、そこから普天間基地もよく見渡せました。陣地壕、トーチカなども見学しました。

那覇市内の国際通り沿いに、二日目の宿泊先「ホテルニューおきなわ」がありました。一時間ほどの自由時間を利用して、お土産を買いに出掛けました。国際通りは歩行者天国になっている時間帯で、勇壮で優雅な路上パフォーマンスを見る事が出来ました。商店街に入っただけ、さとうきびを探しましたが手に入れることが

出来ず、代わりにさとうきびジュースを飲みました。バキバキと音を立て、さとうきびからジュースが滴るのが心地よかったです。もう少し時間をかけて国際通り周辺を散策したかったと思います。ホテルからタクシーに乗って、夕食に出掛けました。

二軒目は、国際通りに戻り、島唄ライブの店で飲み直しです。三線の弾き語りで、みんなノッてきて踊りました。最終日、バスに乗り込み、摩文仁^{まぶん}の平和祈念公園に向かいましたが、三日間の沖縄で初めての雨でした。しかし、ガイドさんが言うにはスコール

で、暫くすると止むだろうとの事。実際その通りになったので驚きました。まず、資料館に入って沖縄戦の概要を学びました。それから外に出て平和の礎に赴きました。「平和の礎」とは、太平洋戦争・沖縄戦終結五〇周年記念として、国籍、軍人、民間人を問わず戦没者の氏名を刻銘し、慰霊するとともに恒久平和を願い戦争の悲惨さを後世へ伝える目的で建設されました。また「平和の礎」にある広場の中央には「平和の火」が灯されています。この「平和の火」は、沖縄戦最初の米軍の上陸地である座間味村阿嘉島に



「平和の火」を囲んで合掌

おいて採取した火と被爆地広島市の「平和の灯」及び長崎市の「誓いの火」から分けていただいた火を合火し、一九九一年から灯し続けた火を一九九五年六月二十三日の「慰霊の日」にここに移し、灯したものです。この日「平和の火」周辺では、平和を訴えているのか、

若者らが演奏や踊りを披露していました。僕達参加者も「平和の火」を囲み合掌しました。バスに乗る為に駐車場に向かう折、次の日の「沖縄全戦没者追悼式」の準備が行なわれているのを拝見しました。個人的には、それに参列なり見学なりしたかったと思いました。次に、ひめゆりの塔に向かいました。ひめゆりの塔は、沖縄戦末期に沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の跡に立つ慰霊碑です。僕は最初、壕の後ろの碑がひめゆりの塔と思っていたのですが、手前の小さな石塔がひめゆりの塔だと竹下さんに

教えてもらい驚きました。ひめゆり資料館内には、沢山の学徒が亡くなられた第三外科壕を底から見上げた形で原寸大のジオラマが作られていました。生き残られた方の証言する映像も流されていて、ずっと聞き入っていました。資料館から出て行くと、慰霊碑の前にテントや祭壇が設置されていて、二十三日は沖縄戦が終結した日で、追悼の日なのです。続いて魂魄の塔へ向かいました。この「魂魄の塔」は、沖縄県で最初に建立された慰霊碑で「ひめゆりの塔」や「健児の塔」のル

ツでもあります。住民、軍人、敵味方の区別なく、アメリカ兵を含む全ての犠牲者を祀っているそうです。「魂魄の塔」に眠る遺骨はすべて身元不明者です。沖縄戦で身内を失った者にとって「魂魄の塔」は家族の墓と同じ意味をもっていると、ガイドの方がおっしゃっていました。黙祷をしてから、米須海岸に行きました。米軍に追い詰められた人たちが、崖から身を投げたり、自決した場所だそうです。現在、地元では絶好のサーフポイントとして知られているそうです。これで現地学習会の日程は全て終了した

のですが、飛行機の搭乗時刻に余裕があると言うことで、急遽南風原文化センターで学習することになりました。
南風原文化センターは、南風原・沖縄に関する歴史資料や沖縄戦に関する展示やむかしの沖縄の人の生活を紹介しています。展示物には、野戦病院の様子も再現されており、生々しい戦時下を感じる事ができます。
センターを出て、沖縄三日間で初めてバスの中で眠ってしまい、起こされて目を開けると那覇空港に到着していました。帰りの飛行機は、眠っていた事もあり、アツとい

う間に大阪へ到着しました。解散式を簡単に済まし、それぞれバラバラに別れて帰りました。僕は、空港バスに乗り込み難波で電車に乗り換えて帰宅の途につきました。
沖縄での三日間、テレビ、書籍などで見たり聞いたりした場所に実際に行き、当地の人の説明を受けることができました。これが全てでは無く、様々な状況、立場によって色々な意見があるものだと思います。
平和ガイドの本村さんや、チビチリガマを解説していただいた知花昌一さんは「軍隊は決して民衆を守らない」とおっしゃ

いました。そうかもわかりません。生き死にの攻防を繰り広げている時に自分以外を守る余裕などなかったかも知れません。守りたくても守れなかったと思う。だとしても、沖縄戦を戦った日本軍にも哀悼と感謝の念を禁じ得ません。現在、平和を享受し安寧した生活を送ることが出来る礎石となられた先人たちの御霊が安らかならんことを祈りながら、今後も平和について考えて行こうと思います。
この機会を与えて頂きありがとうございました。